

東北地方 1か月予報

(6月10日から7月9日までの天候見通し)

平成18年6月9日
仙台管区気象台発表

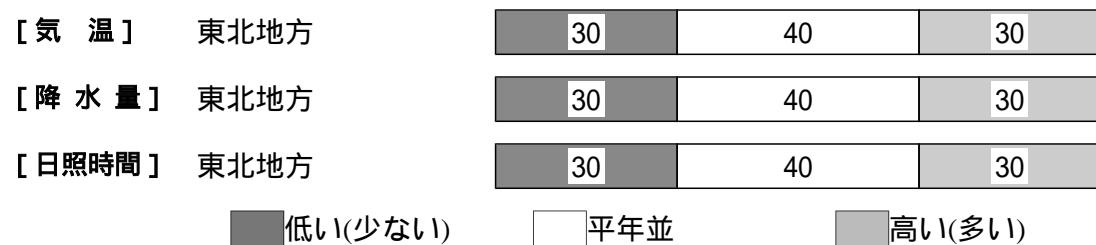
<特に注意を要する事項>

東北南部の太平洋側では日照時間の少ない状態が続いています。今後1週間程度も日照時間が少ない見込みです。農作物の管理などに注意してください。

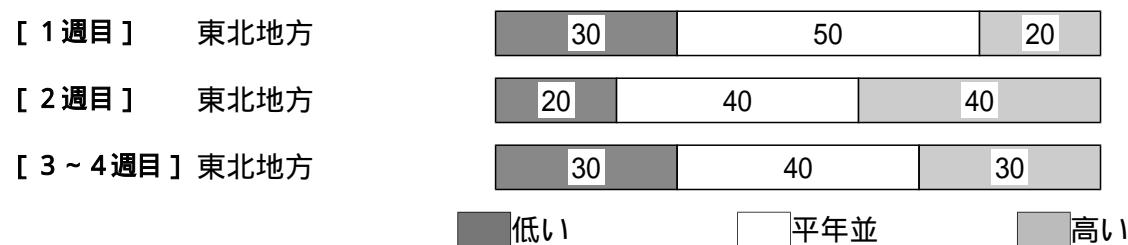
<予想される向こう1か月の天候>

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北地方で平年並でしょう。
週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か高い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 6月10日(土) ~ 7月9日(日)
1週目 : 6月10日(土) ~ 6月16日(金)
2週目 : 6月17日(土) ~ 6月23日(金)
3~4週目 : 6月24日(土) ~ 7月7日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月16日
3か月予報：6月22日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	18.2	181.2	137.6	17.2	17.7	18.8
新庄	19.6	167.7	137.5	18.6	19.1	20.1
若松	20.7	149.9	143.2	19.8	20.3	21.2
深浦	18.3	125.9	169.9	16.9	17.7	19.0
青森	18.0	91.3	172.3	16.8	17.4	18.7
むつ	16.6	121.7	150.4	15.4	15.9	17.2
八戸	17.1	116.2	159.2	16.0	16.5	17.7
秋田	19.9	162.1	163.9	18.6	19.4	20.5
盛岡	19.1	136.9	137.9	18.1	18.6	19.6
宮古	17.0	135.9	131.4	15.9	16.4	17.5
酒田	20.3	166.6	159.7	19.2	19.8	20.8
山形	20.4	125.3	137.8	19.5	19.9	20.9
仙台	19.2	164.4	113.5	18.2	18.6	19.7
石巻	18.5	131.8	131.6	17.5	18.0	19.1
福島	20.7	142.1	116.2	19.9	20.1	21.1
白河	19.2	193.4	108.4	18.3	18.7	19.7
小名浜	19.1	164.7	124.7	18.1	18.7	19.7

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6 ~ +0.5	86 ~ 115	93 ~ 107
東北日本海側	-0.5 ~ +0.3	79 ~ 108	93 ~ 105
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.5	87 ~ 107	91 ~ 111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.4
東北日本海側	-0.6 ~ +0.3	-0.6 ~ +0.4	-0.5 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年6月9日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月10日~7月9日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は平年並でしょう。

1週目(6月10日~6月16日):

東北太平洋側は、湿った東風の影響で曇りの日が多いでしょう。東北日本海側は、期間の初め
気圧の谷の影響で曇りの日がありますが、その他の日は概ね晴れの見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月17日~6月23日):

前線の影響は一時的で、東北地方では平年に比べて曇りや雨の日が少ないでしょう。
平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(6月24日~7月7日):

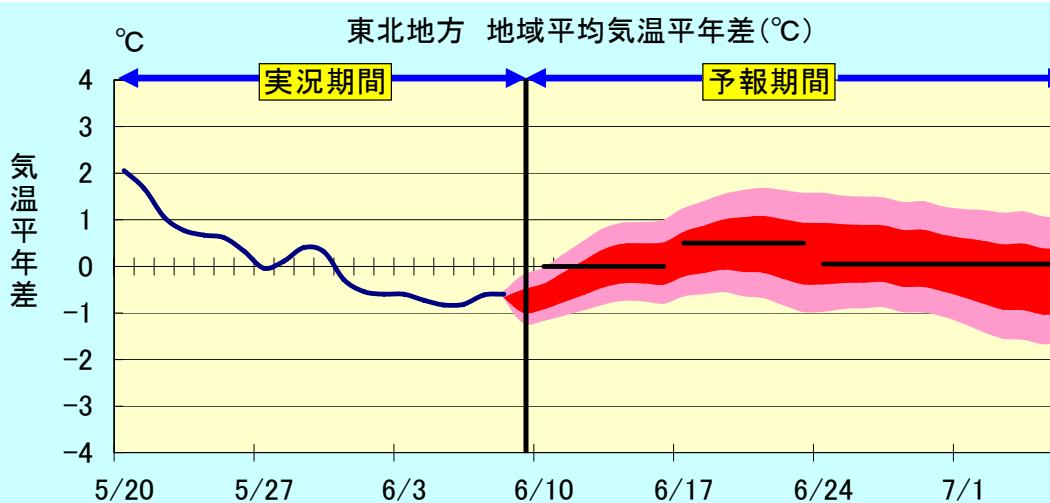
前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.1日	3.6日	3.0日	5.5日
東北太平洋側	10.1日	3.1日	2.5日	4.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも「平年並」と予測している。予
報は、その他の資料から2週目を「平年並か高い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。



* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方の平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)
と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

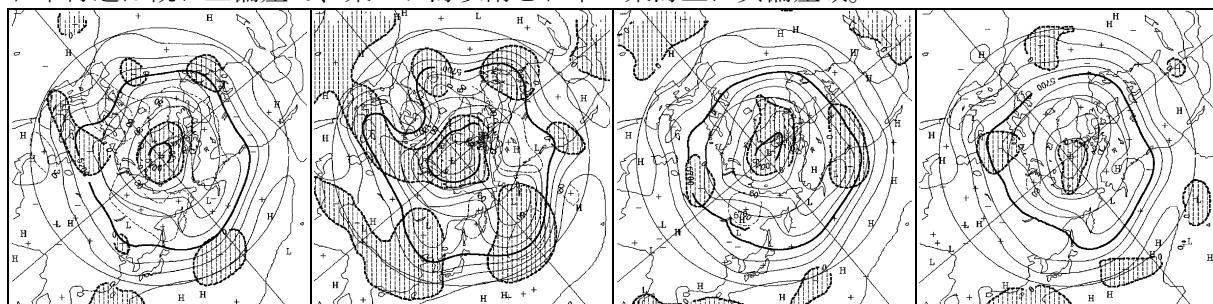
* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極東域の高緯度は正偏差で偏西風は分流傾向。北極付近及び南シナ海では負偏差。

1週目は、極東の高緯度と日本付近は正偏差、東シナ海以西の中国大陸と日付変更線付近は負偏差。カムチャツカ半島付近は平年より高度が高い。2週目はバイカル湖の北では明瞭な正偏差で偏西風は分流傾向。一方、カムチャツカ半島から沿海州にかけては相対的な谷場。3~4週目は、日本付近は概ね正偏差で、東シナ海以南と日本の東海上に負偏差域。



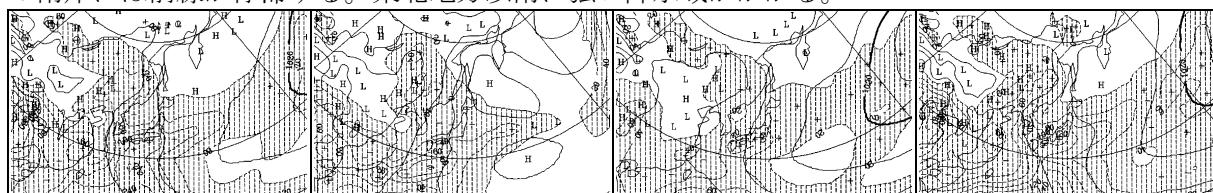
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南岸が相対的な低圧部で、西日本から東北地方までまとまった降水域がかかる。

1週目は、まとまった降水域は中国南部から西日本の南岸沖。オホーツク海付近に高圧部が表現されている。2週目は、北緯30度帯に沿って太平洋高気圧が西に張り出し、日本付近の低圧部は不明瞭。降水域は西日本が中心で弱い。3~4週目は、千島列島付近に高圧部が表現され、日本の南岸には前線が停滞する。東北地方以南に強い降水域がかかる。



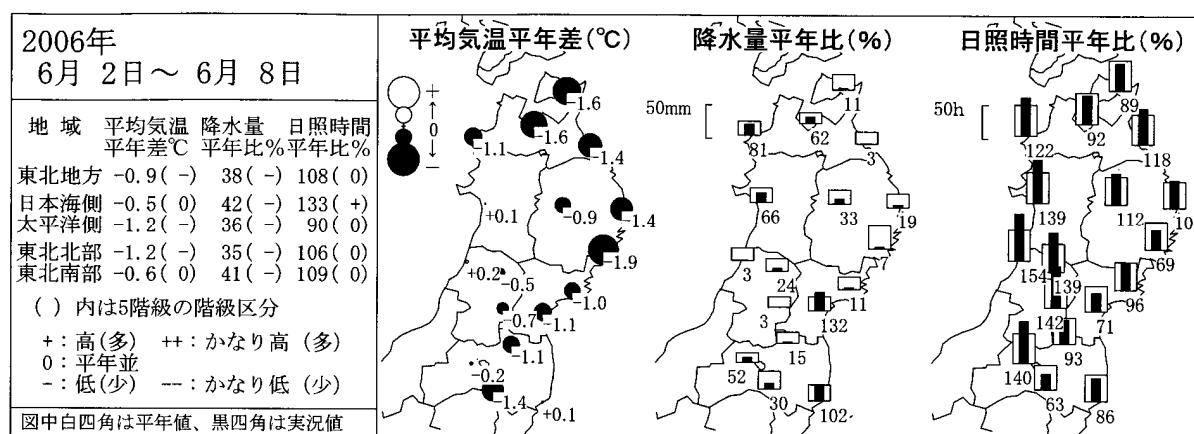
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（6月2日～6月8日）の天候の経過

この期間、北偏した高気圧とオホーツク海高気圧の影響で東北太平洋側は気温の低い日が多く、東北太平洋側の南部は日照時間が少なかった。一方で東北日本海側は晴れの日が多かった。6日から7日にかけて上空に寒気を伴った気圧の谷が東北地方を通過したため、東北南部の所々で強いにわか雨や雷となり、停電や土砂崩れなどの被害が出た。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）